

＜東文研・ASNET共催セミナー＞

神の名とともに生きる

クルアーン解釈の多層性

*Living with the Divine Names
The Diversities of the Interpretation of the Qur'an*

イスラーム教徒たちは、1日5回の礼拝のなかで、何度も神の名前を唱える。また、生活の様々な機会に神名を口にすることで、彼らは神と向き合っている。イスラーム思想史において、スーフィーと呼ばれる神秘家たちもまた、神名を解釈してきた。それによって、彼らは自らの信仰を強固なものにするとともに、クルアーンの新たな解釈を導き出すことを試みた。本発表では、偉大な神秘思想家として知られている、イブン・アラビー(d. 1240)の神名についての議論を、「名前とは何か？」という問いを切り口としながら取り上げることにしたい。

◆ 日 時 : 2015年 7月 9日 (木) 17:00-18:00

◆ 報告者 : 澤井真氏(日本学術振興会特別研究員PD)

◆ コメント : 馬場紀寿氏(東京大学 東洋文化研究所 准教授)

◆ 会 場 : 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

